



北海道博物館
第1期中期目標・計画期
中間外部評価報告書

平成30年3月

北海道立総合博物館協議会

はじめに

北海道博物館^註（以下、博物館という。）は、平成２７年度から北海道立総合博物館条例第２０条の規定により、北海道立総合博物館協議会（以下、協議会という。）を設置した。

協議会は、知事の諮問を受けて評価作業部会を設置し、内部評価及び外部評価方法のあり方についての検討を進め、平成２７年度第２回協議会で「北海道博物館の評価方法のあり方について」を答申した。平成２９年度には、北海道博物館第１期中期目標・計画期（平成２７～３１年度）の平成２７・２８年度の内部評価結果に対する中間外部評価を、平成３１年度には４ヵ年度の外部評価を実施することとなった。また、協議会は、毎年実施する内部評価結果について、外部点検を行うこととした。

本報告書は、平成２９年度第１回協議会において、第１期中期目標・計画期の中間外部評価を実施した結果を報告するものである。

この中間外部評価（内部評価の外部点検を含む）を実施することにより、博物館の内部評価の客観性・信頼性を高めるとともに、博物館運営の改善、道民サービスへの質の向上を目的としている。

外部点検や外部評価の結果は道民に広く公開し、博物館の年度事業運営に反映させるとともに、第２期中期目標・計画の策定にあたり、事業運営等の質的向上に資するものである。

註） 北海道博物館とは、北海道立総合博物館条例の第３条で規定する三つの施設、（１）北海道博物館（以下「博物館」という。）、（２）北海道開拓の村（以下「開拓の村」という。）、（３）野幌森林公園自然ふれあい交流館（以下「ふれあい交流館」という。）のうち、（１）のことを指す。なお、博物館の施設及び設備の維持管理、「開拓の村」及び「ふれあい交流館」は指定管理者制度が導入されており、指定管理者に対する評価は知事が別に定める管理の目標に対する達成度を毎年度、把握・公表していることから、博物館が行う内部評価の対象外としている。

目 次

1	中間外部評価の実施にあたって.....	1
2	第1期中期目標・計画期 中間外部評価結果.....	3
	（1）総括評価	3
	（2）個別評価	4
	① 総括評価番号1	4
	② 総括評価番号2	4
	③ 総括評価番号3	5
	④ 総括評価番号4	7
	⑤ 総括評価番号5	8
	⑥ 総括評価番号6	9
	⑦ 総括評価番号7	10
	⑧ 総括評価番号8	11
	⑨ 総括評価番号9	11
	（3）個別評価（総括表）	13

1 中間外部評価の実施にあたって

平成29年度北海道立総合博物館協議会は、「北海道博物館外部評価実施要領」（平成28年3月23日決定）により、北海道博物館の中期目標・計画期間の中間年度において、中期目標・計画の達成状況に関する中間外部評価を実施した。

○ 評価の目的

博物館は、協議会並びに専門部会の外部評価を受けることで、博物館の内部評価の客観性・信頼性を高めるとともに、博物館運営の改善に役立て道民サービスの質を向上させる。

○ 評価の方法

評価は、「個別評価」と「総括評価」を実施した。「個別評価」は、博物館の中期目標・計画期間の前期2ヶ年度にあたる平成27・28年度の博物館内部評価結果を踏まえ、博物館総括評価番号ごとに下記の①から⑤の項目に、内部評価結果や当該年度の事業実績等を点検・検証し、総合的な判断の上、評価を行った。「総括評価」は、個別評価の結果を踏まえ、博物館の事業実績全体について評価を行った。

【評価対象】

評価対象	内 容
①内部評価結果	評点の妥当性を点検する
②内部評価方法	内部評価実施シートの構造、評点の根拠となるデータ収集方法の適切性を点検する。
③各年度の事業計画	社会的ニーズ、博物館の使命・目標、事業目的の間の整合性を点検する。
④目標管理体制	各部門及び個人の目標管理体制の現状を点検する。
⑤ガバナンス体制	博物館運営体制に対する道庁の支援体制の現状を点検する。

【外部評価の基準】

評価基準	判断の目安	
	取組の項目に関する事項 (右欄の項目以外の項目)	数値目標の項目に関する事項
S 上回って実施している	取組の結果、所期の成果等を上回ったとき	達成度が90%以上 (S、Aの評価は取組状況を勘案の上、判断する。)
A 十分に実施している	取組の結果、所期の成果等を得たとき	
B 十分に実施していない	取り組んではいるが、所期の成果等を得られなかったとき	達成度が90%未満 (B、Cの評価は取組状況を勘案の上、判断する。)
C 実施していない	取組が行われていないとき	

【北海道立総合博物館協議会 委員】

(第2期委員 任期：平成29年9月6日～平成31年9月5日)

氏 名	職 名 等	備 考
宇佐美暢子	株式会社二十一世紀総合研究所 顧問	
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長（教授）	会長
児島 恭子	札幌学院大学 教授	
佐々木史郎	国立アイヌ民族博物館設立準備室 主幹	
澤田 一憲	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事、苫小牧アイヌ協会 会長	副会長
竹垣 吉彦	イオン北海道株式会社 常務執行役員取締役管理本部長	
湯浅万紀子	北海道大学総合博物館 副館長（教授）	

(50音順、敬称略)

(第1期委員 任期：平成27年8月1日～平成29年7月31日)

氏 名	所属および職名等	備 考
宇佐美暢子	株式会社エフエム北海道 元代表取締役社長	
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長	
加藤 忠	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事長	副会長
児島 恭子	札幌学院大学 教授	
佐々木 亨	北海道大学大学院文学研究科 教授	会長
竹垣 吉彦	イオン北海道株式会社 取締役兼執行役員管理本部長	
本田 優子	札幌大学 副学長	

(50音順、敬称略)

【北海道立総合博物館協議会 評価作業部会】

(任期：平成27年10月～平成28年3月)

氏 名	所属および職名等
佐々木 亨	北海道大学大学院文学研究科 教授
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長
竹垣 吉彦	イオン北海道株式会社 取締役兼執行役員管理本部長
吉田 公伸	北海道博物館 副館長
北 敏文	北海道博物館 総務部長兼主幹
舟山 直治	北海道博物館 学芸部長
小川 正人	北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター長兼研究部長
右代 啓視	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
会田 理人	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主査
田村 雅史	北海道博物館 総務部企画グループ研究職員

(敬称略)

2 北海道博物館 第1期中間目標・計画期 中間外部評価結果

(1) 総括評価

総括評価：B

【総評】

総括評価番号1「博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置」、総括評価番号2「道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置」、総括評価番号7「研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置」、総括評価番号8「アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置」については、A評価であり十分に実施されているものと評価された。

この評価から北海道博物館は、博物館としての基本的活動、成果公開、アイヌ文化振興について高く評価されたとまとめられる。

総括評価番号3「利用者の視点に立った博物館づくりへの措置」、総括評価番号4「道民との連携、協働する博物館づくりへの措置」、総括評価番号5「北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置」、総括評価番号9「各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置」については、B評価であり十分に実施されていないと評価された。

この点は、①博物館活動における、地域・道民（利用者）との協働及び地域活性化へのリーダーシップ不足、②組織としてのガバナンスの不透明さがある、とまとめられる。

【課題】

【1】協議会の開催にともなう委員の館内視察の機会では、豊富な学術資料が収蔵されている状況が見学できたが、すでに標本資料庫は資料で埋め尽くされており、今後の資料収集を妨げない学術資料・図書の収蔵庫の整備が必要と強く指摘された。北海道の文化的知財・資料の恒久的な保存管理は、博物館の第一義的な使命であることを明記し、道民が安心して学術資料・図書を付託できる収蔵庫整備が望まれる。

【2】本庁を含めたガバナンスの再構築（北海道開拓の村、旧赤レンガ庁舎の活用方法を含む）、特にガバナンスの可視化のための検討、学芸員・研究職員の個人の目標値設定とその達成度の明確化、オーディエンスリサーチ方法の再検討、学校教育との連携強化、ユニバーサルデザイン・バリアフリー化の促進があげられた。

【3】外部評価方法についても問題点が指摘された。1点目として、評価番号による評価項目の整理が不十分である。特に、複数の評価番号に同項目（内容）が重複するなど評価対象が曖昧な分類になっている。「基本的運営方針」「中間計画・目標／年度計画」と「評価項目」

の関係が複雑なため、本来単純な評価内容のものが、極めて分かりにくいものになっている。この方法は、協議会が諮問を受けて作成した方法（答申）であるが、さらなる検討が必要である。2点目としては、S、A、B、Cの評価基準のうち、A：十分に実施している、B：十分に実施していない、となっており、通常に実施している評価について書きにくいものになっている。次回の外部評価では、その基準の検討をお願いしたい。

【4】諮問と答申、さらに外部評価と協議会との関係についても、意見が出された。協議会に知事から諮問されたのは、「評価方法のあり方について」であり、評価そのものの実施ではなかった。評価方法を作成した協議会委員は内部の実務的委員と考えられ、外部の立場から評価をするもの（委員）としてはふさわしくないという意見である。今回が初回の外部評価であるため、協議会委員がおこなうことは例外的となるかもしれないが、今後、内部と外部の明確な区別を示すことが必要との意見があった。また、今回の外部評価の実施については、協議会は諮問を受けていない。この点は知事、あるいは館長が協議会へ諮問する行政的な手順をふまえた方が望ましいという意見があった。

（2）個別評価

- ① 総括評価番号1 「博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置」
- ② 総括評価番号2 「道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置」

評価：A

【総評】

基本的な博物館活動は、目標達成に向けて着実に展開されていると評価できる。特別展などの企画展の積極的な展開、それによる利用者の増大は高く評価できる点であり、目標達成に向けた優れた活動展開とみなせる。特にジオパーク展の他機関との連携および波及効果実績は高く評価でき、今後の活動モデルとなるであろう。

一方、クローズアップ展示や企画展の企画立案、目標管理、ガバナンスについては、中間外部評価資料（以下、資料）には多くの問題点の記述がみられ、改善の余地がある。実際にはクローズアップ展示の展開は活発に行われているようであるが、資料からはその成果は読み取れず、資料の表記方法に工夫が必要である。外国人利用のための誘導システム、ユニバーサルデザインに配慮した展示に積極的な取り組みがほしい。開拓の村の施設整備には、これまで以上の戦略的な企画立案・予算措置が望まれる。

【個別意見】

○評価できる点

- ・企画展の積極的な展開やそれにとともなう利用者数の増大は大変すばらしい。
- ・基本的な博物館活動は十分に実施されていることが読みとれる。

- ・平成27年度は新体制初年度で、実施できなかったことや目標値を下回ったことも、平成28年度には改善され、さらには軌道にのるなど大きく前進できている。
- ・目標達成に向けて着実にステップを踏んで活動展開できた。
- ・ジオパーク展は、他機関との連携・波及効果の観点から今後の活動の1つのモデルとなると考えられる。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・目標値の設定、管理体制にやや難があった。
- ・外国人利用者の拡大について、来道時の誘導不足があると考えられる。
- ・平成27年度と28年度を比較すると大幅な入館者の減少が見られるが、安定化によるものと考え今後の歯止めを見守りたい。
- ・特別展において2年目の企画が成功した事は評価したい。一方で、企画展について動員が減った上に本来力を入れるべき2年目に回数まで減る事は計画や管理体制に疑問が残る。また当博物館の鮮度を保つ・目玉とも言えるクロズアップ展示について、2年目に入替回数も減った上にテーマ間での回数に大きな格差がある事は管理体制に加え、ガバナンスに至る問題を感じる。結果、年度計画からガバナンスについては厳しい点をつけた。
- ・評価は概ね妥当だが、特別展入場者数については平成27年度、28年度ともに目標値を大幅に上回っているにもかかわらず、前者がAで後者がSであるのは疑問である
- ・建物の補修に関して、平成27年度はどこが計画を上回って達成できたのかが不明である。ただし、全体的には計画を達成できていることから、A評価とした。

○要望

- ・「さわれる展示」については、障がい者向けという視点を広げ、ユニバーサルな展示・ミュージアムという視点で取り組まれてはどうか。
- ・開拓の村の施設整備の企画立案・予算措置は戦略的に進める必要がある。

③ 総合評価番号3 「利用者の視点に立った博物館づくりへの措置」

評価：B

【総評】

「はっけん広場」、「はっけんプログラム」、「はっけんキット」の導入・運用は評価できる。またオーディエンスリサーチにより、利用者満足度が90%を超える結果となったことも高く評価できる。

しかし、ミュージアムエデュケーターの強化を謳いながら、学芸員・研究職員の研修会への参加回数、人数が著しく低く、目標達成への努力が読み取れない。研修会への積極的な参加を促すことのみならず、参加後のフィードバックを館内にどのように行ったかも資料からは判断が難しいため、今後、フィードバック効果の検証も行う必要がある。オーディエンスリサーチの実施方法にも問題あるように読み取れるため、その再検証も必要であろう。

野幌森林公園、赤れんがサテライトの運営については、館独自の問題ではなく、関連機関

との調整を行いながら、新しいアイディアを模索しながら課題克服に努めていただきたい。
危機管理体制の確立も重要課題として検討していただきたい。

【個別意見】

○評価できる点

- ・毎年のオーディエンスリサーチの利用者満足度が90%以上となっている事は評価できる。今後、複数回の入館者が増える3年目以降の維持結果を見守りたい。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・ミュージアムエデュケーターに関する取り組みや戦略的広報体制の強化・実践、オーディエンスリサーチの方法などにまだまだ課題がある。
- ・問題点の把握と効果的解決方法についてさらに追究を。
- ・項目別評価11では、研修会などへの参加人数の増加、実施が必要としているが、その具体的対策案なしの目標にみえる。
- ・項目別評価12では、記念ホールの利用充実に対する方策があったようには見えない。
- ・項目別評価13では、公園運営レベルでの新しいアイディアが必要と思われる。
- ・項目別評価16では、赤れんがサテライトに関する評価は、ほとんどが「できていない」なので、項目別評価16についての評価は、平成28年度は「C」ではないか。
- ・広報には課題があるように見える。
- ・愛称とロゴマークの使用拡大、浸透がどう有効なのか不明である。
- ・目標管理体制が不明確であるように思える。
- ・「ポケット学芸員」など評価できる項目はあるが、特に2年目には見るべき新規取り組みがない。
- ・特に問題と考えるのは「ミュージアムエデュケーターの強化」であり、数十名の学芸員がいながら研修への参加が毎年2～3名というのは私の学芸員への見方をくつがえすものである。自己啓発をされていると思うが、それを目標化すべきと考える。道民の税金にてやとわれている学芸員であるのだから、道民の信頼に応え、自己の研鑽にはげんでいただきたい。
- ・実施する事業の心への浸透状況を計る方法が確立されておらず、評価が難しい。その中で、子供用の「はっけん広場」、「はっけんプログラム」、「はっけんキット」は高く評価できる。展示の満足度調査も多くの展示が90%を越えており、概ね満足度は高いとみて良い。ただし、回答数が多いものほど満足度が下がる（「夷酋列像」と「ジオパークへ行こう」）という数値は、この満足度調査のやり方に問題点があることを示してもいる。
- ・利用者の満足度の把握・各種事業終了後の運営・企画の見直しは重要である。平成29年度以降の検証に期待したい。数値以外の指標も検討してはどうか。
- ・博物館教育関連の研修会への参加のフィードバックがいかになされたのかが、読み取れなかった。
- ・赤れんが庁舎の活用を含め、広報はまだ十分ではなく課題である。

○要望

- ・利用者の安全確保への対応は急務である。
- ・森林公園との連携は、ビジョンを関係者で共有し、活動を推進していただきたい。

④ 総括評価番号4 「道民との連携、協働する博物館づくりへの措置」

評価：B

【総評】

博物館の評価システムが構築されたことは評価できる。オーディエンスリサーチについても継続的実施が望ましいが、その実施方法については再検討を検討されたい（cf. 総括評価番号3）。

道民参加を促す、ミュージアム・パートナーの組織作りは十分に期待されるものであり評価されるものであるが、その運営方法、実施方法については、十分かつ慎重な検討を行ってほしい。特に学芸員の負担が過剰にならないようなシステム作りが望ましい。

【個別意見】

○評価できる点

- ・項目別評価17について、評価システムが構築されたことは、評価できる。リサーチも十分に機能しているように見える。
- ・評価体制が整いつつある。そこで検討された評価をいかに活かしていくかが重要である。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立が不十分である。その点に関する内部の議論の必要性について認識がやや不足してはいないか。
- ・項目別評価18について、道民参加型の事業の実施に向けて、ボランティア、ミュージアム・パートナーの創設に向けて、組織体制など慎重な検討が必要であり、拙速にすべきではない。
- ・（研修に）参加してどうだったのか、ということが不明である。
- ・道民参加型の事業・展示の施設面での可能性に不安がある。
- ・オーディエンスリサーチについて満足度の高さは評価できるものの、実施日が特別展実施中の土曜日という特殊な1日であり、有意的な情報であるかは疑問の残るものであるが、まずはやってみた事を評価したい。例えば、平日にも実施すれば来場者の年齢などは大きく変わると考える。今後は有意性のあるリサーチを企画していただきたい。
- ・「ミュージアム・パートナー」については、意欲的な企画であり実現が難しい事は承知しているが、スケジュールのメドの立たない状況では厳しい評価となる。
- ・項目別評価17が、総括評価3と4とで重複しているのはなぜか？
- ・項目別評価18の平成27年度で言及されている「ミュージアム・パートナー」について、平成28年度には文化芸術振興費の交付申請を行ったようだが、「自己評価」にはその点に触れられていない。平成27年から平成28年にかけて、問題は認識されてはいても改善されなかったことということか？
- ・道民参加型の組織としてはボランティアの他に、山梨県立博物館が行っているように、運営会議のような重要会議に県民代表（各界の代表者）に加わってもらうという方法もある。
- ・オーディエンスリサーチでは、数値化した満足度以外の指標の検討が望まれる。
- ・道民参加型の展示事業が期待される。

⑤ 総括評価番号 5 「北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置」

評価：B

【総評】

北海道の中核的博物館として、研究・研修の面で役割を果たしていることは評価できる。特に北海道博物館協会の事務局を開拓記念館時代から継続して長期に渡り引き受けている点などは、まさに道内の博物館行政・活動の中核的役割を担っておりその貢献は非常に高く評価できる。

一方、研究面においても道内の博物館の中核的拠点として役割を果たしてきてはいるものの、他の博物館を牽引するリーダーシップを発揮してきたかという点は、その活動、道外へのアピールなどから不十分という意見があった。活動を強化する戦略、予算措置を伴う戦略が不可欠である。学校連携については、博物館と学校を繋ぐ人材の育成・採用を検討することが望ましい。「北のミュージアム活性化実行委員会」の取組は評価できるが、継続発展へ向けた計画が資料からは読み取れず、ガバナンスの不備が懸念される。

【個別意見】

○評価できる点

- ・北海道の中核的博物館として、研究・研修の面で、十分な役割を果たしている。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・取り組みの芽は見え、以前より積極性は感じられるが、さらに強化する戦略性が不可欠である。
- ・項目別評価 19 では、研究的中核拠点としての活動が読みとれない。北海道の中核として、道外へのアピール活動が不十分と思われる。
- ・現状では不十分な点が多いが、重要なところなので、今後の期待を込めてAとする。
- ・報告を確認して気がつくのは、他の項目についても同様であるが、オープンで非常に忙しかったはずの平成27年より平成28年の目標達成状況が気になる。
- ・「北のミュージアム活性化実行委員会」の取り組みは素晴らしいと考えるが、そもそもこの委員会をどのように継続発展させていく計画なのか、これに対しどのように北海道庁が関与しているかという情報はシートからは読み取れない。
- ・他の評価番号でもいえるが、年度計画＝達成状況＝自己評価を項目が対応するように記入していただきたい。年度計画がどこまで実施され、どのような効果があり、それをどのように自己評価したのかというのが自己評価の目的ではないか。この評価分野では多くの業務を行い、それなりの効果があり、達成度は低くないにもかかわらず、総括評価をBとしている点が逆に疑問である。
- ・学校連携については、博物館と学校をつなぐ人材（リエゾン・オフィサーなど）の育成・採用を、道レベルで検討してはどうか。

○要望

- ・これまでの蓄積を生かすために予算の措置が望まれる。

⑥ 総括評価番号6 「道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置」

評価：B

【総評】

ウェブサイトの更新方法の改善や、ツイッターの活用による情報発信は評価できる。また企画展（例えばジオパーク展）の際の他の博物館・関係機関との連携はとても良い試みであると思われる。

しかしながら、情報システムやアーカイブに関する問題の把握やシステムの見直し、計画や目標管理体制の構築、レファレンス機能の強化と広報の方法の改善など課題は多い。基本的なステークホルダーは「道民」と考えられるが、道民への対応（知的興味に応える）のさらなる改善を期待したい。将来に広がり期待される分野でもあるので、十分な予算化を図りシステムの整備を進めていただきたい。

【個別意見】

○評価できる点

- ・ジオパーク展で見たような連携をさらに進めてほしい。
- ・比較的単純な作業、といえる部分については、可能な限り進めていくということであろう。
- ・SNSの活用について、担当者が直接ウェブサイトの更新を行えるようになるなど、ツイッターで行事案内にとどまらず 学芸員の声を届けられるようになったことは評価できる。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・ソーシャルメディアの一層の活用などさらに深める必要がある。北海道の中核的博物館として果たす役割は大きい。
- ・項目別評価 20 については、のびしろのある分野なので十分な投資と実行が必要と思われるが、不十分と感じる。
- ・レファレンスについては、基本方針を含めてよく考えてほしい。
- ・図書館についての具体的な稼働のスケジュールがシートからは読みとれない。
- ・年間レファレンス数は、「道民の知的興味に応える」という主旨からは改善が必要。
- ・SNSの活用、図書館のレファレンス機能の向上などに一定の成果が認められる。しかし、北海道の中核施設としてはまだ不十分という判断なのだろうか。全体的に自己評価が低く過ぎるのではないと思われる。ただし、北海道の学術情報の中核施設を目指すとなると、資料データベースの整備と公開、図書館情報の整備と公開について、共同利用性ないし公開性がより高いシステムへの変更など、見直しが必要かもしれない。
- ・レファレンス対応の実績の把握は、重要な課題である。
- ・道庁と連携して広報担当職員が配置されることが望ましい。

⑦ 総括評価番号 7 「研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置」

評価：A

【総評】

出版物の編集・発行体制が整備されるなど、研究成果の発信が強化されたこと、新聞・報道対応の回数が大きく増加していることは評価できる。

しかし、学芸員・研究職員の分野別の研究業績や、研究プロジェクトの内容、研究部門での計画や目標管理について、十分な資料が提示されていないため、客観的な評価が難しい状況にあった。内部評価を実施する際には資料として、これらのデータ（個人名は伏せる形でも良いので、実際の数値データ）を示してほしい。特に目標値の設置（例えば、個人目標の論文・研修参加数）を義務化し、それが達成されたか否かを見ることで、評価の客観性が可能になるものと考ええる。積極的な可視化が望まれる。道外・海外に向けた社会貢献という点では、対外的な博物館の存在意義を高める取組の強化も進めていただきたい。

【個別意見】

○評価できる点

- ・新聞・報道対応等への回数が大きく伸びているのは評価できる。
- ・研究紀要の発行体制の充実・研究成果の発信の強化がなされたことは評価できる。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・以前に比べて大変進歩している。しかし、スタートラインにようやく立ったといえる。なお一層努力し、中核的博物館として脱皮してほしい。
- ・項目別評価 22 に関連して、学芸員の分野別の研究業績を示してほしい。
- ・項目別評価 23 で、「道費による研究プロジェクトを実施中」とあるが、具体的記述がないのでよくわからない。
- ・人材提供や研修会等の参加が低調であり、年を追って減少しているのは心配である。
- ・平成 27 年の場合、個別項目では A、S、A と高い評価がなされたのにもかかわらず、総括評価を B とする理由が理解できない。これでは自己評価の方法そのものを根本的に見直さなくてはならない。すなわち、評価した個別項目以外に更に項目を増やして低い評価を加えないと、総括を B に下げる理由はない。その点の見直しが必要である。そのために評価方法と目標管理体制の点で低くなり、評点全体を押し下げた。
- ・今後の外来研究員の受け入れに期待したい。
- ・派遣研修は、どの後のフィードバックを行ってその成果を見極めて、展開してはどうか。

○要望

- ・北海道庁が、「開道 150 年事業」において、北海道博物館の存在意義を改めて認識して評価し、支援することに期待したい。
- ・対外的な存在意義を強化することも重要である。道民が外に向っても誇れる道立博物館であるように願う。

⑧ 総括評価番号 8 「アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置」

評価：A

【総評】

アイヌ民族文化研究センターについては、年度計画については定性的で具体的であること、課題が認識されている点において評価できる。

事業の実施計画の立案や、事業の優先順位の明確化などに改善の余地がある。無理のない計画立案・目標設置などが課題である。改善を図って充実した事業を実施していただきたい。

【個別意見】

○評価できる点

- ・展示の強化、情報発信力は高まった。今後、さらに特色を生かした運営に努めてほしい。
- ・アイヌ民族文化研究センターについては、年度計画については定性的で具体的で、ない部分もあるもののプロセスおよび達成状況の報告が、見て一定以上の目標管理体制があったことがうかがえる。
- ・課題が的確に認識されているため、今後の活動展開に期待したい。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・アウトリーチはうまくいっているが、基盤となるデータベース作成や研究活動に問題がある。
- ・平成 27 年度に内部評価 B の部分は、翌年に解決策を目標に入れるなど具体的目標（値）に欠けるように読める。
- ・博物館の基礎となる、資料の所在調査、登録を進めてほしい。
- ・既定の条件下で優先して行うべきことを明確にしてほしい。
- ・平成 29 年度の状況によっては計画の見直しが必要になることはないのか。
- ・目標管理体制が不明である。
- ・平成 27 年度では全体的に B の項目が多いのに、総括評価で A とするのはおかしい。平成 28 年度でも B が半数近くを占め、全体的に目標・計画達成感が低いのに A とするには抵抗がある。アイヌ民族文化研究センターに関する項目の評価が低いのが、これは目標・計画に無理があったためではないのか。むやみに高い目標を設定するのではなく、組織のミッションと組織、人員の能力などを勘案して総合的に判断しながら目標や計画を立てるものである。わかりきったことではあるが、いきなり実現不可能な高い目標や大量の計画を立てると評価が低くなりすぎ、組織の正当な評価につながらないのではないだろうか。

⑨ 総括評価番号 9 「各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置」

評価：B

【総評】

館内の意思決定の迅速化や情報共有の強化が実現された点は、評価できる。

しかし、懸案事項が多数残されている点、重要度・緊急度の明確化、およびガバナンス体制の可視化の必要性など、課題がある。特に本庁とのガバナンスの関係が資料からは理解しがたく、評価者にとっては疑問が多く残り、評価しにくいものとなっている。本庁の体制も含めた、高次元のガバナンス体制の構築は必要なものであり、一層進めていただきたい。ガバナンス評価の方法については、年度ごとの予算・収支決算を資料として提示していただくことで、ガバナンスの流れや情報が読み取れるものと思われ、評価に際して、それらの資料の提示をしていただきたい。また、協議会での発言との対応関係も確認する必要があり、過去の議事録との関連も資料として提示していただきたい。

【個別意見】

○評価できる点

- ・館内の意思決定の迅速化や情報共有の強化が実現されたことは評価できる。

○注視すべき点、改善を要する点

- ・多くの懸案事項が、まだ手つかずのまま山積している。
- ・職場全体のガバナンス意識の向上が求められる。
- ・項目別評価 24 については、重要度・緊急度を明確にし、未実施のものが出ても計画的に数年後に処理する年度スケジュールとすべきである。
- ・項目別評価 25 の意思決定機構については、別の方策をねるべきではないか。
- ・可視的でないので よくわからない。ここが機能しないと大きく動くことができない。だからこそ高次元のガバナンス体制の理念を示してほしい。
- ・平成 27 年度、28 年度についてはスタートと考えている。平成 29 年度以降の改善状況を見守りたい。権限の行使状況や、決裁等が正しく行われているのか わからないため全項目 B とする。
- ・館員が所属する組織、グループ内での情報共有状況に問題があるとするが、会議に出席できなかったものに対してメール等を使って情報共有を図るなど、一定の評価を与えることができる点もある。学芸職員を、事務系統と研究系統と 2 系統の兼務とし、各系統をグループ制にして効率的な組織の運用を図るという方法は、まだ始まったばかりなのでこれから注意深く見守る必要はあるだろう。学芸職の特性を活かした組織ともいえるが、両系統の仕事を、組織として、個人としてどう評価するのか、まだ方法が定まっていらないように見受けられる。更に全体を通していえるが、道庁のガバナンスが今ひとつよく見えない。積極的に関与するケースと見守るケースとを明確にして、外部の目にわかりやすい組織運営を期待したい。

○要望

- ・道庁のガバナンスの実態については、資料だけでは十分に把握できなかった。
- ・道庁には、北海道博物館の存在意義を改めて理解していただき、研究支援者や広報担当者の増員、学校教育や道内他機関との連携に、より積極的に関与していただきたい。

(3) 個別評価(総括表)

【総括評価番号1、2】

博物館総括評価			
平成27年度		平成28年度	
【1】 A	【2】 B	【1】 A	【2】 A

協議会外部評価				
評価	S	A	B	C
A	0	6	1	0

博物館項目別評価			
No.	H27	H28	目標(値)
1	A	A	・北海道博物館として必要なコレクションの受け入れ・登録
2	A	B	・重要文化財公開承認施設としての資料保存環境の整備
3	A	A	・総合展示の維持管理と資料の入替え
4	A	S	・総合博物館として様々な企画展を計画・実施
5	A	B	・総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施
6	A	A	・科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得
7	B	S	・建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施(H27・28)
			・建造物の内部展示の改修計画の策定(H28)
			・百年記念施設のあり方検討(H28)

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	7	0	0
②	0	6	1	0
③	1	5	1	0
④	0	4	2	1
⑤	0	3	4	0

【総括評価番号3】

博物館総括評価			
平成27年度		平成28年度	
A		B	

協議会外部評価				
評価	S	A	B	C
B	0	4	3	0

博物館項目別評価			
No.	H27	H28	目標(値)
8	A	A	・子ども向けの魅力あるイベントの充実
9	A	A	・子ども向けの教材の開発
10	A	A	・はっけんプログラムの運用(H27)
			・利用者ニーズに適合させたはっけん広場の充実化(H28)
11	B	B	・ミュージアムエデュケーターに関する取組(H27)
			・ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組(H28)
12	B	B	・アメニティ設備の設置
			・オリジナルグッズの販売
			・設備の活用に向けた基準の策定
13	A	B	・バス停の移設(H27)
			・交通案内の多言語化(H28)
			・サインの仕様等の検討、土地所有者への協力依頼(H28)
			・屋上開放の再開(H28)
14	A	A	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上
15	A	B	・利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	4	3	0
②	0	5	2	0
③	0	4	3	0
④	0	2	5	0
⑤	0	2	5	0

16	B	B	・赤れんが庁舎の活用 (H27)
			・「北海道博物館赤れんがサテライト」の改善・充実化 (H28)
17	A	A	・利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し (H27)
			・北海道立総合博物館協議会などの実施と運営 (H28)
			・内部評価の計画的実施 (H28)
			・オーディエンス・リサーチの実施 (H28)

【総括評価番号4】

博物館総括評価			
平成27年度		平成28年度	
A		B	

博物館項目別評価			
No.	H27	H28	目標(値)
17	A	A	・利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し (H27)
			・北海道立総合博物館協議会などの実施と運営 (H28)
			・内部評価の計画的実施 (H28)
			・オーディエンス・リサーチの実施 (H28)
18	A	B	・道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の打出し (H27)
			・道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立 (H28)

協議会外部評価				
評価	S	A	B	C
B	0	3	3	1

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	4	3	0
②	0	5	1	1
③	0	5	2	0
④	0	3	3	1
⑤	0	4	3	0

【総括評価番号5】

博物館総括評価			
平成27年度		平成28年度	
B		B	

博物館項目別評価			
No.	H27	H28	目標(値)
19	A	B	・連携及び交流の方針・計画案の作成 (H27)
			・外部組織・機関との連携・協力等を行うための方針の策定 (H28)

協議会外部評価				
評価	S	A	B	C
B	0	2	5	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	3	4	0
②	0	4	3	0
③	0	3	3	1
④	0	2	5	0
⑤	0	1	5	1

【総括評価番号6】

博物館総括評価			
平成27年度		平成28年度	
B		B	

協議会外部評価				
評価	S	A	B	C
B	0	2	5	0

博物館項目別評価				外部評価(個別結果)				
No.	H27	H28	目標(値)	評点	S	A	B	C
20	B	B	・図書室の活用のための中長期プランの作成	①	0	0	7	0
			・ソーシャルメディアの一層の活用(H28)	②	0	4	3	0
			・レファレンスの流れの一元化(H28)	③	0	2	4	1
				④	0	1	5	1
				⑤	0	2	5	0

【総括評価番号7】

博物館総括評価				協議会外部評価				
平成27年度		平成28年度		評価	S	A	B	C
B		A		A	1	4	2	0

博物館項目別評価				外部評価(個別結果)				
No.	H27	H28	目標(値)	評点	S	A	B	C
21	A	B	・研修・実習プログラムの開発(H27)	①	1	5	1	0
			・博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成(H28)	②	0	3	4	0
			・博物館学系領域の充実化(H28)	③	2	3	2	0
22	S	A	・職員の対外貢献の促進(H27)	④	1	4	2	0
			・研究成果の多様な発信(H28)	⑤	0	5	2	0
23	A	A	・道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制作り					

【総括評価番号8】

博物館総括評価				協議会外部評価				
平成27年度		平成28年度		評価	S	A	B	C
A		A		A	0	4	3	0

博物館項目別評価				外部評価(個別結果)				
No.	H27	H28	目標(値)	評点	S	A	B	C
1	B	A	・総合展示の定期的な入替え(H27・28)	①	0	3	4	0
			・クローズアップ展示の計画に沿った更新の円滑な実施と今年度の方針を踏まえた次年度以降の計画策定(H28)	②	1	5	1	0
			・「アイヌ文化Q&A」の定期的な入替え(H28)	③	0	4	3	0
2	B	A	・企画展または巡回展の実施(H27)	④	0	2	5	0
			・企画テーマ展、蔵出し展の開催と次年度以降の計画の具体化(H28)	⑤	0	3	4	0
			・巡回展の実施と次年度以降の開催地の選定(H28)					
3	B	A	・研究プロジェクトの実施(H27)					
			・調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる(H28)					
4	B	B	・資料・情報の収集と整備(H27)					
			・継続的かつ体系的に調査・収集を実施するため、組織的な整備・調査計画の作成に着手する(H28)					

5	B	B	・公開資料の充実(H27)
			・未公開資料の公開と公開資料に関する情報提供の充実(H28)
6	B	B	・発信媒体強化に向けた方向性の打出し(H27)
			・整理・公開計画の策定に基づきデータベース化を着手する(H28)
			・ホームページアクセス10,000以上(H28)
7	B	B	・統合後の支援態勢の整備(H27)
			・認知度を上げるため、ホームページ等での新たな情報を掲載する(H28)
8	A	A	・アイヌ文化関連のイベントの実施と改良(H27)
			・アイヌ文化関連のイベントの段階的な増加と改良(H28)
9	A	A	・積極的な発信と協働の推進(H27)
			・研究紀要等を通して研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる(H28)

【総括評価番号9】

博物館総括評価			
平成27年度		平成28年度	
A		B	

博物館項目別評価			
No.	H27	H28	目標(値)
24	B	B	・各部のグループ業務に関する課題の共有と解決(H27)
			・課題の共有と解決(H28)
10 アイヌ研	B	B	・館における研究センターの運営(H27)
			・研究センター会議(副館長・センター長・非常勤職員の会議／職員全体の会議／主幹・主査の会議)の定例化(H28)
25	A	A	・課題の共有と解決

協議会外部評価				
評価	S	A	B	C
B	0	0	7	0

外部評価(個別結果)				
評点	S	A	B	C
①	0	1	6	0
②	0	2	5	0
③	0	2	5	0
④	0	1	6	0
⑤	0	1	6	0